

舞鶴市公共交通利用促進協議会における地域公共交通活性化・再生総合事業 ＜鉄道関係＞

事業期間
20～22年度

「人・環境にやさしい、交流と定住を支える公共交通体系の構築」を基本コンセプトとし、人と環境にやさしい公共交通機関の充実、交流を促進する交通体系の整備、市民生活における交通手段の確保を図る。

【目標】鉄道利用者数：18年度・1,124千人 → 22年度・1,216千人

舞鶴市公共交通利用促進協議会

舞鶴市、京都府、JR西日本(株)福知山支社、北近畿タンゴ鉄道(株)、京都交通(株)、舞鶴観光協会、自治会、道路管理者、近畿運輸局など

事業の概要(22年度)

1. JRポケット時刻表、路線バスマップ、公共交通便利帳作成事業

①JRポケット時刻表(25,000部)

②路線バス&KTR時刻表・マップA2版(55,000部)



舞鶴⇄京都・大阪方面特急
関係時刻早見表



③JR・KTR・京都交通バス路線・自主運行バス運行ダイヤ総合時刻表 (3,000部)



(参考)公共交通利用者への市営駐車場 補助事業

市営駐車場料金が、特急・新幹線利用の場合、きっぷ購入金額に応じて最大2日間まで無料になるサービス

購入金額 5,000円以上・・・1日間無料 10,000円以上・・・2日間無料
加えて、それに満たない場合でも鉄道・高速バス利用者について1日最大300円の駐車料金で利用できる補助もある。

20年度利用実績25,077台

21年度利用実績26,179台

22年度利用実績25,889台

2. KTR(北近畿タンゴ鉄道)イベント列車運行支援事業

＜内容＞臨時列車の運行支援 湯つくりタリヶ浦温泉 日帰りの旅 (かにツアー、場所:網野・木津温泉)「タンゴディスカバリー車両」(臨時列車)使用
100名参加



	現状 (平成18年度)	経過			
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	
鉄道利用者数	1,124千人	1,246千人	1,183千人	1,167千人	
路線バス利用者数	699千人	719千人	697千人	690千人	
パーク&ライド助成制度利用数	27千台	25千台	26千台	26千台	
観光入込数	126万人	136万人	140万人	151万人	

22年度 導入への プロセス

平成20年度の鉄道利用者数は、1,246千人で平成21年度の鉄道利用者数は、1,183千人であり、対前年度比63千人の減少であった。景気の低迷や新型インフルエンザなどの影響と推定される外部的要因による利用者減少傾向の中で、平成22年度もさらなる利用者数の減少を招かないように利用者への情報提供とマイレール意識の高揚につながる事業を実施した。利用者への情報提供としては、従来から取り組んでおり利用者から要望があるJRポケット時刻表、路線バスマップの作成と、新規に鉄道バスの総合時刻表である公共交通便利帳を作成した。マイレール意識の高揚としては、イベント列車運行支援事業を実施した。

22年度 事業の 効果

利用者への情報提供

JRポケット時刻表、路線バスマップ及び公共交通便利帳は、市街地の主要駅、観光案内所、観光施設、市民が頻繁に利用する公民館、図書館など広く配付したことにより、平成23年3月12日に導入された新型特急車両のPRや、パークアンドライドの推進として、市営駐車場利用料補助の周知が図れたと考えられる。しかし、高速道路無料化社会実験などの外部的要因によりマイカー利用者が依然として多く、鉄道利用者数増に結びつく結果にならなかった。

マイレール意識の高揚

イベント列車運行支援事業は、普段、鉄道利用のない中高齢層を中心に人気があり、リピーター客が多い。KTRの沿線外に住む市民の参加が多く、申込み時には、定員を大きく上回る応募がありキャンセル待ちが生じたほど盛況であり、定期外客の利用者増に貢献した。

次年度 以降

地域公共交通活性化・再生総合事業を活かした今後の取り組みについて

平成23年度以降も、JRポケット時刻表・路線バスマップ作成事業は、市民や利用者から要望や問い合わせもあるため継続していきたい。限られた紙面の中、ダイヤ以外に役に立つ情報提供を併せて行いたい。また、イベント列車運行支援事業も、KTRは毎年冬期に1回運行しているが、市民から期待されているものであり、内容を工夫し継続していきたい。JRIについても従来から市独自補助で計画している。

今後、人口減少、少子高齢社会の進行により利用者数の推移はますます厳しくなると予想できる。将来、路線がなくなり困ることがないように、市民の移動手段であり経済の基盤である交通の利用促進策について、公共交通利用促進協議会を開催し、検討、実施をしていきたい。